

## 1.

ミーンミーンミーン…

—夏—

太陽が真上にある。ここからが一番暑い時間。

風は温風。

2人の少年が進む。

顔つきこそまだ幼さの残るもののその日焼けした顔、日々の部活動によって鍛えられた身体からは精悍さも感じられる。

月末の地方大会決勝に備えてレギュラー陣は遠征中。残された部員は短時間ながら学校での練習を終えた。

地方大会を征すれば夢の甲子園だ。

「アーチー…アー…」

『さっきからそのアーア言うのを止めろ。余計暑くなる。』

「暑いもんは暑いんだ、嘆く位させろ。」

「それにしても今日は暑すぎるだろ。せっかく練習が早く終わったのにこんな暑い中帰るなんて地獄だぜ。」

『たしかになあ、どうせ練習が短いなら午後からなら帰る時には暑さもましなんだけどな。』

「今度先輩達に言ってみようぜ？」

『止めとけよ。どうせたるんでるとかなんとか言って罰練させられるぞ？』

「うげえ…でも浮かぶわ、そのシーン。」

「あの人ら自分達がレギュラーに選ばれないからって何かにつけて八つ当たりしてくるもんな。」

『先輩達だって必死なんだろう。なんだかんだ言いつつ連帯責任だって自分達も一緒に罰練してんだからさ。』

「でもいいよな、お前は。」

『なにがだよ？』

「わからないんですかコノヤロー。」

『何が言いたいんだよ』

「レギュラーよ。俺のポジションライバル多いし。」

『俺だって一緒だろ。』

「いやいやお前のポジションは正捕手の谷口先輩が引退したら次はお前だろ。」

『そんな事無えよ。』

「言っちゃ何だけど2年の大野先輩はキャッチャーとしては断然お前より下手だ。バッティングの方はチームでもトップクラスだけどさ。」

『そのバッティングが俺は全然先輩に敵わないんだよ。』

「あの人がレギュラーに選ばれてるのはお前より1年多い経験のおかげだぜ。その証拠に最近あの人が他のポジションの練習もさせられてるもん。」

「監督はきっと3年が引退したらお前をキャッチャーで使いつつ先輩も他で使いたいんだよ。」

『まあ確かにキャッチャーで重要なのはバッティングよりも守りだけどさ、全部お前の予想だろ？』

「うん…」

『…当てにならん…』

「あ、コンビニ寄ろうぜ。涼みたいし。」

【イラッシャイマセー】

.....

.....

...

2.

【アガトウゴザイマター】

「今の店員の娘可愛かったな。」

『そうか？俺のタイプじゃない。』

「はぁ…お前は本当に見る目が無えな。」

「俺はお前アレだよ？これがあの一目惚れかレベルだよ？」

『そんなに気に入ったなら声掛ければよかっただろ。同じ学校だし。』

「そんな事恥ずかしくてできるかッ！てか何で同じ学校って知ってたんだよ？やっぱお前もッ」

『一緒なんだよ、中学。』

「あ、そっすか。」

『てかお前は何をそんなに買ってんだよ？』

「ん？アイスと…おにぎり…あとからあげ？このからあげうめえんだよ。知らねえのか？てかお前も買ってんじゃん。」

『アイスな。』

「？」

『この炎天下でそんなの食ってたらアイス溶けるぞアホか。』

「いやアイス先に食えばいいだろ」

『気持ち悪ッ…』

「いやいやアイス食ったら今度しょっぱい物欲しくなるじゃん？てか腹ペコじゃん？」

『せっかくアイスですっきりした後に口の中油でギトギトじゃねえか。』

「そうしたらまたすっきりさせればいいだろ、アイスでも食ってさ。そうだ、エンドレスアイスと名付けよう。」

『……腹壊せ』

「あッ！！！！」

『急にでかい声出すなよ。』

「—った…」

『なんだって？』

「当たった！」

『ああ、なんだ良かったじゃん』

「俺、これ当たった事ないんだよ！」

『おめでとう』

「うひゃーこれはテンションあがるわーやべえなこれは…」

『そんなにかよ。』

「夢だったんだよ、これ。」

『やすい夢だな…せめて夢は甲子園出場とかプロ野球選手とか言えよ。』

「馬鹿野郎、お前はこの凄さが全く理解出来てないな。それにそんなのよりアイスの方が現実的で叶いそうだろ。」

『はあ…待っててやるから交換して来いよ。ほらエンドレスアイス。』

「いやいやまだおにぎりとかからあげ食ってねえし、次のコンビニでいいだろ。」

『お買い上げになった店舗でって書いてあるだろ？』

「ん？別にいいだろそんなん」

『そういうのって元々入荷する時に当たり分多く入ってるって聞いた事あるぞ。他で交換したらダメだろ。』

「まじかー…そりゃやべえなー…どうするかー…」

『いやだから待っててやるから交換して来いよ』

「いやさあ…恥ずかしいじゃん？」

『はあ?!』

「だってお前これ駄菓子屋とかなら「はいおばちゃん当たり！」ですむけどさあ…コンビニって…」

「難易度高いわー…」

『店員からしたらそういうもんなんだから何も関係ないだろ』

「いやでもなあ…」

『それにほれさっきのあいつ、あんな可愛い可愛い言ってたんだし良いきっかけじゃ

ん、。連絡先聞いて来いよ。」

「いやいやいやいや余計無理だろそんなん…恥ずかしすぎるだろ…」

「「すいません、アイス当たったんですけど。あ、あと好きです！連絡先教えてください！」」

「…無理だろー…」

「絶対裏で「あ、この前アイスの当たり交換しに来た坊主の人だ」とか言われるんだよ…仇名はガリガリ君で決定ですよ…」

「ア…ア…」

………

………

…

「お前にやるよ…この当たり棒…」

『やすい夢だな。』

「俺の夢をお前に託すッ！かわりにあの娘紹介してくれッ！！」

『ほんとやすい夢だな。』

終

## あとがき

色んな所で言ってるけど普段小説なんて読まない人だからどう書いていいかすらもわからなかったよ。

内容的にはありきたり。夢で最初に思いついたのがオチだったからそこから膨らませて背景も季節はずれの夏になりました。

そんなこんなで設定的におかしいところや文としておかしい、見苦しい所もあるかとは思いますが大目に見てください。

MUTU